

(平成 27 年 9 月 1 日～平成 28 年 8 月 31 日)

平成 28 年度事業は、当初の事業計画ならびに予算案に基づいて次のように行われた。

1. 会員数

平成 28 年 8 月 31 日現在の会員数は次のとおりである。[専門分野別会員数集計表 () は前年度数]

会員数:H28.8.31 現在 () は H27.8.31 の数

会員種別	医・歯		理		農・工		薬		他		計	
名誉会員－国内	34	(36)	12	(11)	7	(7)	13	(13)	1	(1)	67	(68)
名誉会員－国外	-	-	-	-	-	-	-	-	80	(79)	80	(79)
永年会員	5	(5)	3	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	8	(7)
評議員	322	(324)	181	(193)	129	(131)	138	(141)	4	(5)	774	(794)
正会員	1,766	(1,788)	1,565	(1,600)	961	(1,014)	1,156	(1,204)	202	(217)	5,650	(5,823)
学生会員	226	(147)	389	(281)	385	(282)	250	(198)	2	(3)	1,252	(911)
小計	2,353	(2,300)	2,150	(2,087)	1,482	(1,434)	1,557	(1,556)	289	(305)	7,831	(7,682)
異動数	53		63		48		1		-16		(前年比)	149)
賛助会員									80口	(90)	54社	(62)
団体会員											158団体	(164)
総計											8,043	(7,908)
											(前年比)	135)

H28.8.31 支部別会員数 () は H27.8.31 の数

支部名	会員数(名)		%
北海道	214	(239)	2.8%
東北	570	(506)	7.4%
関東	2,957	(2,942)	38.1%
北陸	212	(203)	2.7%
中部	686	(695)	8.9%
近畿	1,696	(1,632)	21.8%
中国・四国	714	(709)	9.2%
九州	702	(677)	9.1%
計	*7,751	(7,603)	100.0%

註：除・外国人名誉会員

2. 会議

会務運営のために行われた主な会議の開催状況は以下のとおりである。

定例理事会	10月, 12月, 4月, 8月	3回
定例常務理事会	2月	1回
JB編集委員会	12月, 4月	2回
生化学誌企画委員会	12月, 6月	2回
各種授賞等選考委員会	7月	1回

3. 研究発表会, 講演会等

(1) 第 88 回大会(日本分子生物学会第 38 回と合同)

日時：平成 27 年 12 月 1 日～4 日

場所：神戸ポートアイランド

会頭：遠藤斗志也

特別講演 3 題, パイオニアズレクチャー 3 題, シンポジウム 20 テーマ, ポスター 4, 076 題, Late-breaking Abstracts 367 題

バイオインダストリーセミナー 18

参加登録者：9, 640 名 (内 学生 3, 668 名)

*他に招待者等 490 名 総合計 10, 130 名

(2) 第 53 回総会

日時：平成 27 年 11 月 20 日

会場：ホテル東京ガーデンパレス

第 5 回臨時総会

日時：平成 28 年 5 月 25 日

会場：ホテル東京ガーデンパレス

(3) 各支部の集会は次のとおりである。

	平成 28 年度	平成 27 年度
北海道支部	1	2
東北支部	1	1
関東支部	1	1

中部支部	1	1
北陸支部	1	1
近畿支部	1	1
中国・四国支部	1	1
九州支部	1	1

各支部における学術活動は活発であり、多くの支部でシンポジウムを開催した。

4. 研究業績の表彰、奨励

平成 28 年度奨励賞, JB 論文賞, 柿内三郎記念奨励研究賞および柿内三郎記念賞の受賞者は以下のとおりである。

日本生化学会奨励賞

北川 大樹、鈴木未来子、辻田 和也、中村 由和、名黒 功

JB 論文賞 (第 25 回)

稲垣 賢二 他 10 名、吉村 徹 他 5 名、野田 昌晴 他 6 名、胡桃沢仁志 他 4 名、住本 英樹 他 2 名、高木 博史 他 3 名、Luisa Castagnoli 他 8 名

柿内三郎記念奨励研究賞 (第 13 回)

齋藤 康太、鈴木 隆史

柿内三郎記念賞 (第 11 回)

菊池 章

5. 会誌等

(1) 会誌発行状況は以下のとおりである。

○生化学 ※偶数月の隔月発行 (6 回/年)

	総頁	論文数	総説	MR	TN	その他
第 87 巻 H27.1~6	806	150	52	64	2	32
第 88 巻 H28.1~4	548	105	33	41	2	29

*支部編集による特集号は好評を博している。

**編集企画協力委員には非会員の参画も要請し、幅広い企画の立案に努めている。

○The Journal of Biochemistry

	Pages	No. Paper	Reg. P	Comm- mun.	Rev/ Minirev.	Ref. & Others
Vol. 157, 158 2015	1,123	109	86	1	22	0
Vol. 159, 160 (Jan.-Aug.) 2016	768	78	62	1	15	0

*2016 年の Impact Factor は 2.397 となり対前年比マイナス 0.185 (7%) ポイントであった。

(2) 各月の配布状況は以下のとおり。

	生化学	JB
個人会員	479	100
団体会員	158	94
賛助会員	54	54
商社・書店	139	170
交換・寄贈・保管等	170	182
計	1,000	600

6. 学術集会の企画

平成 28 年度バイオフィロンティアシンポジウム 1 件を決定した。

7. 関連諸会議・学協会との連携および協力

(1) 平成 27 年 10 月に Hyderabad で開催された FAOBMB カンファレンスに代表を派遣し、参加希望会員に Travel Fellowship を行った。

(2) IUBMB の活動をサポートした。

(3) 男女共同参画学協会連絡会 (第 14 期幹事), 生物科学学会連合の会員として活動した。

(4) 日本学術会議, 日本学術振興会, 日本医師会, 日本医学会などの調査に協力した。

8. 学術活動の援助

次の 9 件の学術集会を援助し、それぞれ盛会であった。

(1) 北海道支部「第 53 回支部例会」 (7 月)

(2) 東北支部「第 82 回東北支部例会」 (5 月)

(3) 関東支部「生命科学に基づく診断と治療」(6 月)

(4) 北陸支部「遺伝子発現と転写産物調節のフロンティア」 (5 月)

(5) 中部支部「先端生命科学と生化学」 (5 月)

(6) 近畿支部「応用を指向した生化学研究」(5 月)

(7) 中国・四国支部「神経糖鎖生物学の新展開」 (5 月)

(8) 九州支部「合成化学と免疫・創薬」 (5 月)

(9) 生化学若い研究者の会「第 56 回生命科学夏の学校」 (8 月)

9. 委員会の活動

(1) 情報専門委員会

ホームページの改修を行い、熊本地震専用掲示板、学会紹介ムービーを設置した。

(2) 男女共同参画推進委員会

第 88 回大会時にランチョンセミナー「研究者のライフイベントを考える－目指すべき制度改正と環境改善－」を日本分子生物学会と合同で開催した。

また、男女学協会連絡会第 14 期幹事学会として運営にあたった。

(3) 研究倫理委員会

日本医学会連合研究倫理委員会との連携を図り、意見書等を提出した。

(4) 各種授賞等選考委員会

本会奨励賞および JB 論文賞、公益財団法人倶進会による「柿内三郎記念賞」「同奨励研究賞」の選考を行った。また、他財団への賞・助成に対し、候補者募集の周知をはかり、選考、学会推薦をおこなった。